個人質問

６月定例会で
13 人の議員が
質問しました。

馬越裕正議員

観光政策について

議員　今、スローライフが静かなブームである。実は、真鍋島が「にほんの里１００選」に選ばれている。大々的に宣伝してはどうか。

市長　本市の観光行政の進め方は、付加価値の高い体験型観光の情報発信をしていく手法が考えられる。一方、景観の保全や伝統行事の保存・伝承を進める仕組みづくりや、宿泊場所・食事等をする場所の整備などの受け入れ態勢づくりが課題となっている。今後は、笠岡諸島をＰＲすると同時に、これら観光資源の整備を図っていきたい。

情報発信の強化策について

笠岡諸島（一番下が真鍋島）

議員　今年度、本市をＰＲする映像を制作し、動画による情報発信にも取り組むということだが、その具体的内容についてたずねる。

　福井県鯖江市は、市の魅力をＰＲする映像を全国から募集し、大変話題になった。ぜひ実施してはどうか。

政策部長　観光、自然、行事、施設、食・特産品、移住された方の情報などを紹介するような映像を制作して、ホームページでの公開、ＤＶＤの制作・活用を行う。

　映像を募集する取り組みについても、前向きに検討していきたい。

共通入場券の発行について

議員　竹喬美術館、カブトガニ博物館、郷土館の３館共通入場券を発行してはどうか。

教育長　秋に開催される国民文化祭を好機ととらえ、試験的に取り組んで、その実績を考慮しながら本格的な導入に向けて検討したいと考えている。

ほかに★**組織機構改革と業務内容**について質問しました。

角田訓也議員

福山市との交流・情報交換について

議員　本市とは経済的な影響が深い福山市との情報交換・交流は不可欠ではないか。

市長　市民にとって日常的な生活圏域ということから、またこれからの時代はこれまでの地域開発を主体とする連携ではなく、生活の安心・豊かさにつながる連携が必要と考えている。福山市はもとより、必要に応じた広域的な情報交換・交流が必要と考えている。市民が安心して暮らせる住みやすいまちづくりを目指して、積極的に協議していきたい。

都市計画道路の見直しについて

議員　都市計画道路の見直しについての素案が提示された。金崎浜田線の事業の予定についてたずねる。

市長　現在、財政面などにより事業を凍結している状況で、具体的な事業実施の時期を申し上げることは現時点では困難である。しかし、将来的な整備に向けてどのような事業手法を利用することが最も効果的であるか、引き続き検討していきたい。

市民病院について

議員　砂川市民病院は、事務職員のプロパー（注１）採用により専門的な知識の向上と病院に対しての愛着度が増し、結果として黒字経営を行っている。本市も市民病院の職員の採用に関して、プロパー採用ができないか。

市長　現時点ではたちまち考えていない。しかし、病院経営の専門性を持った人材の採用がぜひとも必要であると考えている。今後は、成功している先進病院等も参考にしながら、プロパー採用も含め、経営感覚のある人材の採用を検討したい。

市民病院

蔵本隆文議員

笠岡湾干拓地「道の駅」について

（注１）プロパー採用…出向社員や派遣社員ではなく、その会社の社員として採用すること。